



(フェスタを楽しむみつばち保育所の子どもたち)

Vol. 6 2007 年 4 月 21 日発行

エルサルバドルより ーみつばち保育所の動きー

みつばち保育所は 10 年程前に、中米エルサルバドル共和国の首都サンサルバドルの近郊、サンタテクラ市内の疎外地区マルガリータに創立されました。当時サンタセチリア高校校長の神父の協力により、学校敷地内のサッカー場の一角にあるクラブハウス作業場を借り、縫製

講座と託児所を開始したのが始まりでした。当初は、このような疎外地区に暮らす未婚の母親たちを対象とした職業訓練講座を行い、指導員とスタッフをおきました。7 台のミシンから始めた講座は、多くの女性たちに役立ちました。特に、学校に通う機会を得られなかった彼女たちにとって、縫製の技術を身に付け職を得る事が出来た事は大きな喜びをもたらしました。また縫製講座に通う母親のために設けた託児所に近所の子どもたちが遊びに来るようになり、次第に保育所になったのがみつばち保育所設立の始まりです。

保育所で遊び育った子どもたちが、2003 年頃から学校に通いながら識字や計算などの宿題を持ってくるようになり、その必要性に応じて、図書コーナーと机、椅子や黒板等の設備を充実させ、遊びと勉強のスペースに分けました。ここには、現在約 70 名の子ども達が行き来しています。

子ども達はみな疎外地区に暮らし、家族が非常に貧しいために学校に通う経済的余裕や時間がありません。スタッフは家族と地区の人々との連携を大切にしながら、出来る限り学校に行ける様に見守っています。中には、両親のどちらかが刑務所に入っているなど、悲しく苦しい状況の中で育つ子どもも少なくありません。みつばち保育所は活動や勉強だけのためだけでなく、厳しい状況下にいる子ども達の家庭的な役割も果たしています。保育所が創設された当時、子ども達は不衛生で暴力的でしたが、長い時間を経て、子ども達の間に愛情が育まれ、互いに助け合いながら生きる力を身に付けました。またマルガリータ地区を対象とする医療ケアの日“La Jornada Medica”医療巡回日(2ヶ月に1回実施中)を設けています。この活動には地域の医療施設、病院、薬局等が協力、支援しています。単なるケアに限らず、衛生面の指導、栄養摂取の指導ができる貴重な機会になっています。

〈次号に続く〉

記事：アンドレア・ロマーニ（イタリア人現地スタッフ）



(医療巡回の様子)

文化講演会 ー在日外国籍住民の社会問題を考えるー

2006年11月26日

2006年11月26日にThe Othersは『国境を越えた人たちのといかけー日本に移住してきた人々の状況とその課題』というテーマで文化講演会を開きました（オリブジャパン国際開発協力協会と主催）。ここでは、日本に住む外国籍の人々の社会問題のために長年働かされている狩浦正義神父様をお招きしてお話をうかがいました。お話をお聞きして、改めて自分の無知さを感じました。在日外国籍住民と一口に言っても入国の目的によっていくつかに分類されることなど、改めて知りました。とりわけ、オーバーステイ（ビザの期限が切れた状態で滞在）」している人たちが送られる入国者収容所での実態に驚きました。ここでは刑務所と違い、ある程度の自由があるそうですが、この自由はあくまで収容所内のもので、外を自分の目で見ることができないそうです。しかも、様々な国の人たちとの共同生活を強いられるので、ストレスによって精神的病になる人も少なくないそうです。ニュースを通してこのような事情を何となく知ってはいましたが、彼らがどのように来日し滞在しているかは殆ど知りませんでした。

神父様の話を聞き終えて感じたことは、「このような話題はニュースでは見るから知っているけど、実際のところあまり身近な問題ではないからぴんとこない」ということでした。私の町には、南米やアジア諸国を出身とした人たちが多く住んでいます。それに関わらず自分にはこの課題を身近に感じられなかったのは何故だろうと考えました。それこそ神父様が語った「心の距離」が原因ではないかと思いました。「日本には制度的許容はある程度持てたとしても、文化的広がりやの限度がある」また、「来日外国人の方たちと向き合いきれない根本として、私たちが何も知らないことが原因だ」と神父様はおっしゃいました。条例・法例に載っていないからではなく、まず歴史や背景を学び、それを知ることが出発地点だそうです。「関心を持つと、いくつでも入口がある」と語られたその言葉は本当にその通りだと思います。このようなニュースは何も他国で起きているものではなく、この日本で起こっている問題です。しかし、実際私の心の中には「外国人の人たちの問題だから私には直接関係のないこと」という意識がありました。無関心であるということとはとても恐ろしいことだと思います。もしかしたら、私たちは社会問題だけではなく、身近な学生生活、友人、家族などに関しても無関心な態度をとっているかもしれません。この講演会を聞いて、まずは物事の正しい情報を知ることの大切さ、また一人一人の心の壁を無くし良い人間関係を築くことの大切さを学びました。今後、ますます多様化していく日本において、外国籍住民の社会問題は誰にとっても身近な課題となっていくでしょう。

記事：南山大学スペイン・ラテンアメリカ学科一年 吉田有希

トナーレスターテ2007

トナーレスターテは“トナーレの夏”という意味

毎年夏、イタリアトのパスツデルトナーレ（トレンティーノアルト州ブレーシア県）で国際文化平和フォーラムが開催されます。世界の紛争地（パレスチナ、イスラエル、北アイルランド、バスク、チェチェン、コルシカ、エルサルバドルなど）で平和のために働く人々を招き、経験を聞きます。講演後にはワークショップが行われ、パネリストと交流の場を持ちます

（6月に今年のプログラムの説明会を予定）

国際文化平和フォーラム、イタリア
8月4日ー7日



ガブリエル・ムエスカ氏（バスク独立運動中に、無実の罪により17年間の投獄生活を送った。現在は愛と平和のうちに刑務所の改善のために尽くしている）と日本人学生



世界中から集まった若者たち

教室便り 一洋画講座教室より一

芸術は衣食住(生活)の場になくとも生きてはいけるものではありませんが、芸術は人間にとってなくてはならないものだと思います。絵は心に関するものであり、創作とは好きなものを自分の可能性のなかで知らず知らずのうちに楽しみ、また没頭するものだからです。この講座の中でわたしが心がけていることは、ただ物をそっくりそのまま写したり、上手に描くことではなく、自分のなかにある何かを表現することが大切だと感じてもらえるようにすることです。

実際に手を動かし、もの(ここでは筆や鉛筆)を動かすと、そこに形ができます。そうすると自分が気づかなかった自分の見方を発見します。絵の鑑賞の仕方と同じように、人それぞれであるのは、自分でも気づかないうちに自分の経験や考えが表れてくるからです。外的なものだけでなく、内的なものを見ているからだと思います。対象物という「外なるもの」と自分の「内なるもの」がつながり、「表現」となります。自分とその対象物が、いかに関係しているのかを表現します。そうすると、自分というものの、自分のなかの心情が見え、常識的な見方を越えて別の見方を発見します。つまり、ものの本質に近づくということです。

談: 講師 柴田高良

◆受講者の声◆

斉藤芳雄氏

受講歴は8年目となりますが、退職してからずっとここに通っています。それまで全くやったことがなかったので、初めての経験です。余計なことを考えずに一心になって楽しんでます。上手に描こうとする欲があるとやはりだめだと思いました。だいたい4回(教室は月2回)で一つの作品を仕上げています。今までは静物画を中心に描いています。家には私が描いた数十枚があります。この講座を始めてから、研究のためにいろいろな作品を見るようになりました。作品を見ながら、この色は

どのようにだしているのだろうかと気になり、あらためて完成している自分の絵を直したくなることもあります。先生がおっしゃるように、絵は上手になろうとして描くものではありません。ものを説明するために描くのではなく、自分にはどうみえるのか、つまり、自分の表現方法を見つけていくことが、この講座で得た描くことの楽しみです。子供がどろんこ遊びに夢中になるような感じで、他人の目を気にせず、楽しんでます。

取材: 仲村文子

(* 洋画講座は第3・5土曜日 17:30より布池文化センターR411教室で行っています。)

次回はイタリア語教室を紹介します。

その他文化講座

■イタリア語講座■

経験、個性豊かな先生による楽しいイタリア語教室。この教室の特徴は、言葉だけではなく、生きているイタリアの文化を学べます! 講師は16年間イタリアで建築家として活躍した篠田先生と、現在通訳第一人者の柴田先生。愛知万博イタリアパビリオンでは副館長と儀典を担当した二人。

第1. 3火曜 PM7:00- 月額 6000 円

■フラワーアレンジメント■

お部屋の中に、季節の花を飾りましょう。決まったスタイルではなく、同じ花材を使いながらもそれぞれの個性を生かしたユニークな指導です。生花のアレンジ、コサージュ、押し花など、また季節に合わせてクリスマスリースや正月飾りなどを楽しくおしゃべりを交えて学びます。

第1月曜 PM7:00- 花材込 2500 円

■イタリア料理講座■

ここで習うイタリア料理は、カンパーニャ州サレルノ県アグロポリの、ルイザお母さんとエルビーラお婆さんの特別レシピ。地中海ダイエットで評判になった、スローフードそのものです。太陽の恵みがいっぱいの、おいしくて簡単にできるレシピを紹介します。

第4日曜 PM5:00- 材料込 5000 円

INFORMATION

会員募集

オリーブジャパンの活動に賛同していただける会員の方を随時募集しています。

- ・ 賛助会員（一ヶ月一口 10,000 円）
- ・ 正会員（一ヶ月一口 5,000 円）
- ・ 協力会員（一ヶ月一口 2,000 円）
- ・ 参加会員（一ヶ月一口 1,000 円）
- ・ 同調会員（一ヶ月一口 500 円）

「郵便振込用紙」に必要事項と会員の種類、納入方法（月払い／年一括）をご記入の上、会費を納入ください。

振替口座番号

0 0 8 9 0 - 1 - 2 4 5 8 2

会員の皆様には、会報「オリーブ・プレス」と講演会、バザー等のご案内を優先的にさせていただきます。

洋画講座

第 3・5 土曜日 17:00 より
布池文化センターR411 教室

フラワーアレンジメント講座

第 1 月曜日 19:00 より チャオチャオカフェ

イタリア料理講座

第 4 日曜日 17:00 より チャオチャオカフェ

イタリア語講座

第 1・3 火曜日 19:00 より チャオチャオカフェ

講座の収益金はすべて中南米の貧困に苦しむ若者の教育支援に使われます。

海外での働き

◆エルサルバドル（サンサルバドル）

エルサルバドル事務所

FUNDIPRO（見捨てられた児童のための援助協力）

《事業内容》

- ・ 文化教育センター設立（1994 年 2 月）
- ・ （貧困に苦しむ女性のための自立支援事業洋裁講座）
- ・ 貧困に苦しむ若者のための Domus「安定した家」開設
- ・ 児童センター「みつばち保育所」運営
- ・ 運営協力、ボランティア派遣による支援活動
- ・ エルサルバドル地震 被災民の子どものための教育施設運営

◆メキシコ合衆国（メキシコシティ）

メキシコ事務所

I.C.T.E (Instituto Cientifico Tecnico Educativo)

メキシコ技術短期大学

《事業内容》

- ・ I.C.T.E 技術専科短期大学設立（1993 年 9 月）
- ・ 教育者育成のための講座開講
- ・ 就学困難な学生のための奨学金制度実施
- ・ 外国人のための留学制度（スペイン語コース・インテリアデザインコース）実施
- ・ 日本からのホームステイプログラム

◆ホンデュラス

《事業内容》

- ・ 未婚の母のためのセンター開始
- ・ 災害被災民の子どものための教育施設「太陽の小さな学校」運営
- ・ ボランティア派遣

◆その他

ヴェネズエラ

《事業内容》

- ・ エルコロソ農業学校への施設整備支援
- ・ ボランティア派遣

*お問い合わせは、下記連絡先まで。

年 4 回発行 「オリーブプレス」 Vol.6 2007 年 4 月 21 日（土）発行

発行 オリーブジャパン国際開発協力協会 olivejapan80@hotmail.com